

パーマネット・ウェーブ用剤使用上の注意自主基準

ご使用の前に「使用上の注意事項」と「使用方法」を必ず最後までお読みください。

使用前の注意事項

1. 次に該当する方は、皮膚や身体が過敏な状態になっています。パーマ剤が皮膚や傷口に付着した場合激しい皮膚障害等を起こしたり、症状が悪化することがありますので、使用しないでください。

- ① 頭皮、顔、首筋、手等にはれもの、傷、皮膚病がある方。
- ② 生理時、生理日の前後および産前産後の方。
- ③ 病中、病後の回復期にある方、その他身体に異常がある方。
- ④ 脱毛症にかかっている方。
- ⑤ 特異体質の方または過去にパーマ剤でかぶれ等のアレルギー症状を起こしたことがある方。

(記載対象：A, B, C, D, E, F, G, H, I)

2. 次に該当する方は、毛髪や皮膚を傷めますので、使用しないでください。

- ① 毛髪が著しく傷んでいる方。
- ② 染毛（酸性染毛料を除く）してから一週間以内の方。
- ③ 前回のパーマ施術から一週間以内の方。

(記載対象：A, B, C, D, E, F, G, H)

3. 使用方法を誤ると毛髪を傷めたり、かかりぐあいにも悪影響を与えます。また、皮膚障害やその他思わぬ事故を起こすこともありますので、使用法、使用量を必ず守ってください。

(記載対象：A, B, C, D, E, F, G, H, I)

4. かかりぐあいを確認するために、できればあらかじめ毛髪の一部で試験的に本品を使用してみてください。

(記載対象：A, B, C, D, E, F, G, H, I)

5. 頭髪以外には使用しないでください。眉毛、まつ毛等に使用するとパーマ剤が目に入るおそれがあり、危険です。

(記載対象：A, B, C, D, E, F, G, H)

6. 本品は、毛髪の安全性を保つために、使用に際しては高度の理美容技術を必要とします。美容室、理容室以外では使用しないでください。一般の方（理美容師以外の方）が使用した場合、毛髪を傷めたり、断毛を起こすおそれがあります。

(記載対象：G, H)

7. ヘアピン、ピアス等の金属加工品、ネックレス、ブローチ等のアクセサリー類、メガネ等は、パーマ剤が付着すると変色や変形をすることがありますので、使用前に必ず取りはずしてください。

(記載対象：A, B, C, D, E, F, G, H)

#### 操作中の注意事項

1. パーマ剤やすすぎ液が目や耳に入らないようにしてください。目に入ったときは、すぐに水またはぬるま湯でよく洗い流し、直ちに眼科専門医の診察を受けてください。耳に入ったときは、綿棒等で取り除いてください。もし、異常を生じた場合は、耳鼻科専門医の診察を受けてください。そのまま放置すると目や耳に障害が生じるおそれがあります。また、自分の判断で目薬等を使用しないでください。

(記載対象：A, B, C, D, E, F, G, H, I)

2. パーマ剤が皮膚につきますと、かぶれなどの皮膚障害等を起こすことがありますので、顔面、首筋等にパーマ剤がつかないように注意し、タオルターバン、保護クリーム等で保護してください。なお、パーマ剤が皮膚についた場合は、直ちに水またはぬるま湯で洗い落とし、ぬれたタオル等でふき取ってください。このとき、こすらずに軽くたたくようにしてください。

(記載対象：A, B, C, D, E, F, G, H, I)

3. パーマ剤が衣服や床、壁、家具、カーテン等につきますと、シミになったり変色することがありますので、使用の際にパーマ剤をこぼしたり、飛び散ることがないようにし

ゆうぶん注意をしてください。パーマ剤を誤ってつけてしまった場合は、直ちにその箇所を水またはぬるま湯等でじゅうぶんに落とした後、クリーニング等を行ってください。

(記載対象：A, B, C, D, E, F, G, H)

4. 第1剤を毛髪に塗布後、ドライヤー、ウオーマー、スチーマー、赤外線等により加熱して使用しないでください。毛髪を著しく傷めたり、断毛や皮膚障害等を起こすおそれがあります。

(記載対象：A, C, D, E, G)

5. 第1剤の加温温度と作用時間にじゅうぶん注意をし、用法および用量に従って正しく施術を行ってください。

(記載対象：B, F, H)

6. パネル等に毛髪を貼りつけて使用しないでください。また、第1剤を毛髪の根元部分につけないでください。断毛を起こすおそれがあります。

(記載対象：E, F, G, H)

7. 指定されたパーマ剤以外では高温整髪用アイロンを使用しないでください。

(記載対象：A, B, C, D, E, F, G, H)

8. 本品の使用にあたっては、特に次の事項に注意して下さい。

① 毛髪の安全のために、使用する高温整髪用アイロンの温度は180℃以下に設定してください。

② 本品は高温の整髪用アイロンを使用しますので、整髪用アイロンの取扱いおよび操作にはじゅうぶんに習熟し、かつ注意してください。

③ 本品は高温の整髪用アイロンを使用するため、事前に正しく毛髪診断を行い、傷んだ毛髪、傷みかかった毛髪などには使用しないでください。

④ 第1剤操作終了後は水またはぬるま湯で必ず中間水洗を行い、第1剤をよく洗い流した後、高温整髪用アイロンを使用してください。第1剤をじゅうぶんに洗い流さずに高温整髪用アイロンを使用しますと、毛髪を傷めるおそれがあります。

⑤ 第1剤を洗い流した後、毛髪を乾燥させてから高温整髪用アイロンを使用してください。このときに乾燥が不じゅうぶんな場合は、高温整髪用アイロンの熱で水蒸気が発生し、やけどをするおそれがあり、また、乾燥しすぎると、毛髪を傷めたり、断毛を起こすおそれがありますので、毛髪の乾燥状態にはじゅうぶん注意を払ってください。

- ⑥ 高温整髪用アイロンで加温する時間は、一箇所約2秒間としてください。また、高温整髪用アイロンを移動させる際には、過度の圧力をかけないでください。操作を誤ると、毛髪を傷めたり、断毛を起こすおそれがあります。
- ⑦ 毛髪保護のために、既に縮毛矯正処理を施した部分への連続使用はさけてください。
- ⑧ やけどをするおそれがありますので、高温整髪用アイロンを頭皮に近づけすぎないように注意してください。

(記載対象：G, H)

9. 第1剤操作終了後は水またはぬるま湯で必ず中間水洗を行い、第1剤をよく洗い流してください。第1剤を洗い流さずにそのまま第2剤操作に移りますと、毛髪を傷めたり、第2剤の作用が妨げられます。また、第2剤操作終了後もじゅうぶんに水洗を行って第2剤を洗い流してください。水洗が不じゅうぶんな場合は、毛髪を傷めたり、かかりぐあいに影響があります。

(記載対象：A, B, C, D, E, F, G, H)

10. 操作中や操作後には、手指の保護のために、手についたパーマ剤をよく洗い流してください。また、かぶれ、手荒れ等のある場合は、パーマ剤と直接接触しないようにしてください。必要に応じて適当な手袋を着用してください。

(記載対象：A, B, C, D, E, F, G, H)

保管および取扱い上の注意事項
----------------

- 1. 幼小児の手の届かない所に保管してください。  
(記載対象：A, B, C, D, E, F, G, H, I)
- 2. パーマ剤を誤って飲んだ場合には、直ちに医師の診察と適切な処置を受けてください。  
(記載対象：A, B, C, D, E, F, G, H, I)
- 3. 本品は密栓して、高温の場所をさけ、直射日光の当たらない場所に保管してください。保管中に変色や沈殿等の異常が認められたものは使用しないでください。  
(記載対象：A, B, C, D, E, F, G, H, I)

4. 本品の第1剤は(1)と(2)があります。使用直前に必ず全量を混合してください。  
(1)も(2)も単独では使用しないでください。混合した第1剤の使い残りは効果が下がりますので、使用しないでください。

(記載対象：D)

5. 本品の第1剤の(1)はチオグリコール酸の含有量が高いので、取扱いにはじゅうぶん注意してください。もし、誤って手指等についた場合には、すぐによく洗い流してください。

(記載対象：D)

6. 一度開封したパーマ剤は、空気に触れて効果が下がりますので、早めに使いきってください。また、アプリケーション等には用時必要量を取り、使い残りはもとの容器に戻さないでください。

(記載対象：A, B, C, D, E, F, G, H)

7. 第1剤と第2剤を混合しないでください。発熱して危険です。

(記載対象：A, B, D, E, F, G, H, I)

8. 臭素酸塩第2剤と過酸化水素水第2剤を混合しないでください。有害な臭素ガスを発生して危険です。

(記載対象：A, B, D, E, F, G, H, I)

9. 粉末状の第2剤を第1剤と接触しないように特に注意して保管してください。発火の危険があります。

(記載対象：A, B, D, E, F, G, H, I)

#### その他の注意事項

1. 操作中または操作後に頭皮、顔、首筋、手等に発疹、発赤、かぶれ、刺激等の異常を生じた場合には、直ちに皮膚科専門医の診察を受けてください。かぶれ部位等を手等でこすらないでください。操作中にこのような症状が現れた場合には、すぐに操作を中止し、よくパーマ剤を洗い流してください。なお、第1剤操作の途中で異常を生じた場合には、直ちに水またはぬるま湯で第1剤を洗い流した後、第2剤を異常部位につかないように

注意して毛髪に塗布し、数分間放置後よく洗い流してください。その後、皮膚科専門医の診察を受けてください。

(記載対象：A, B, C, D, E, F, G, H, I)

2. パーマ施術の前後一週間は染毛（酸性染毛料を除く）しないでください。毛髪を著しく傷めたり、かかりぐあいに影響があります。

(記載対象：A, B, C, D, E, F, G, H, I)

#### 【使用上の注意事項記載上の留意点】

1. “ご使用の前に「使用上の注意事項」と「使用方法」を必ず最後までお読みください。”の一文は、使用上の注意事項の冒頭に必ず記載すること。ただし、パーマメント・ウェーブ用剤の酸化剤においては、“必ず組み合わせて使用する第1剤と本品の「使用上の注意」、「使用方法」をよく読んで正しくお使いください。”の一文を記載すること。

2. 各注意事項は、注意事項の最後にかっこ書きで示したアルファベット記号に従い、それぞれのパーマメント・ウェーブ用剤の分類に応じて記載すること。ただし、複数の分類を含む承認の場合はそれぞれの分類で必要な注意事項を全て記載すること。なお、各アルファベット記号とパーマメント・ウェーブ用剤の分類との対応は次に示すとおりである。

A：コールド二浴式パーマメント・ウェーブ用剤

B：加温二浴式パーマメント・ウェーブ用剤

C：コールド一浴式パーマメント・ウェーブ用剤

D：第1剤用時調製発熱二浴式パーマメント・ウェーブ用剤

E：コールド二浴式縮毛矯正剤

F：加温二浴式縮毛矯正剤

G：高温整髪用アイロンを使用するコールド二浴式縮毛矯正剤

H：高温整髪用アイロンを使用する加温二浴式縮毛矯正剤

I：パーマメント・ウェーブ用剤の酸化剤

3. 使用上の注意事項は、それぞれの製品に応じて適切に選択して記載すること。自主基準を一括して記載しないこと。

4. 該当しない注意事項を削除して記載する場合、以降の注意事項の番号を繰り上げて記

載すること。

5. 「使用前の注意事項」第6項は、ゴシック文字で記載すること。
6. コールド一浴式パーマネント・ウェーブ用剤の場合は、「操作中の注意事項」第4項および第9項、並びに「その他の注意事項」第1項を次のとおりとすること。
  - 1) 「操作中の注意事項」第4項中の“第1剤”を“パーマ剤”に置き換えて記載すること。
  - 2) 「操作中の注意事項」第9項を次の文章に置き換えて記載すること。

“操作終了後は水またはぬるま湯で必ず水洗を行い、パーマ剤をよく洗い流してください。水洗が不じゅうぶんな場合は、毛髪を傷めたり、かかりぐあいに影響があります。”
  - 3) 「その他の注意事項」第1項中の“なお、第1剤操作の途中で異常を生じた場合には、”以降の文章を削除して記載すること。
7. 「使用前の注意事項」第6項の規定事項を除き、各注意事項にアンダーラインまたはゴシック文字等を使用すること、並びに紙および印刷の色等について、日本パーマネントウェーブ液工業組合の統一的な取り決めは行わない。各社で適宜対応して差し支えないが、見やすいものとする。
8. 各注意事項について、内容が異ならない範囲で表現を変えることは差し支えない。